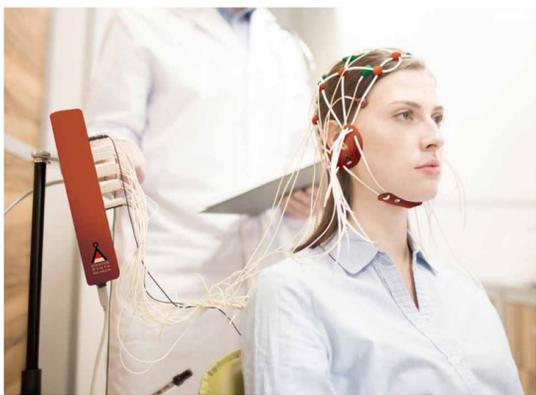


# サンタの謎に迫る

今年も「どうしんサンタ捜索チーム」の季節がやってきた。28日、同チームは北海道新聞社本社（札幌市中央区）で会見を開き、活動の再開を宣言した。「サンタは本当にいるのか」という世界中の子どもの永遠の謎を解明するため、2010（平成22）年に北海道新聞社広告局（現営業局）が立ち上げた同チーム。新聞社が本気でサンタクロースを探すと、異例の取り組みは、今年で活動9年目を迎える。昨年はサンタが落とすとみられるプレゼント箱を回収したものの確たる証拠をつかめなかった。今年の勝算はいかばかりか、会見の内容から探る。

## サンタ捜索チーム再始動 キーワードは「脳波」



捜索チームが発表した「サンタ・サーチ・プレーン（SSB）」。

「平成最後のクリスマス。新しい時代にサンタの謎を持ち越してはならない」。どうしんサンタ捜索チームで捜索の指揮を執る三田育三（みた・いくぞう）部長は、会見の第一声で決意を表明した。同チームは北海道新聞社「どうしん夢プロジェクト」の一環として発足。サンタクロースを信じる子どもたちの夢のためにその存在を証明しようと、同社営業局を中心に編成された。外部の専門家や特別捜査班「S・A・N・T・A（サンタ）」なども連携し、通常の新聞社業務と並行しながら活動。毎年11月から12月を中心に、さまざま

「6感捜索モード」。この最新鋭マシンを使用するのは、選ばれた特選経験豊富な優秀な人材たち。彼らが無意識に発動させる「サンタ勘」をマシンが検知して、自動的にサンタのいる可能性が高い方向へドローンを向かわせる機能だ。その間、捜査員はコントローラーを持つわけでもなく、リラックスしているだけで良いという。にわかには信じがたい話かもしれないが、海外の研究機関とも秘密



「クリスマスには、想像力を育む本を」と話す白旗さん

### クリスマス本で心豊かに

クリスマスプレゼントとして根強い人気を誇る「本」。その今年の動向を探るべく、21日江別市にグランドオープンした「江別 薦屋書店」の書店員、白旗匠子（しらはた・しょう）さんにお話を伺った。オープン間もないため正確な情報は得られていないものの、昔から親しまれているクリスマス本や冬の本に注目が集まるといふ。子ども向けの絵本は、飛び出す絵本といった仕掛け絵本が人気。大きめサイズでクリスマスらしい特別感がある海外の著者のものももちろん、小さめサイズで日常的に読みやすい日本の作品は、お出かけにも持っていきやすいと評判がある。また、祖父母からの贈り物として冬の定番本も安定して選ばれているほか、若い家族には置いておくだけで絵になるデジタル本もお勧めだ。

「知」「暮らして」「食」という3つのコンセプトで



### 「サンタ新聞」募集中

サンタ捜索チームは、今年の捜索の取り組みの環として「サンタチャレンジ2018」と題し、親子でサンタやクリスマスにまつわる新聞を作る「サンタ新聞」を募集している。今年のクリスマスに家庭で予定していることやサンタへの気持ちなどを記事にした内容を中心に、両親やサンタとの約束事を記入する記事や、過去のサンタ捜索の記事を読んだ感想も募集する。

同チームの三田育三部長は「サンタを信じる良い子の皆さんからいただいた記事をサンタ捜索の参考にしたい。また、親子で力を合わせて新聞を作ることでも、親子で協力し、サンタへの気持ちや文化を伝えることにもつながる。想いも強く伝わる」と、この取り組みの目的を語る。新聞の見本はサンタ特設Web（[https://adv.hokkaido-np.co.jp/santa/santa\\_challenge/](https://adv.hokkaido-np.co.jp/santa/santa_challenge/)）で閲覧でき、新聞制作用の雛形もダウンロードして使用可能。応募先は〒060-8711北海道新聞社営業局営業推進部内「どうしんサンタ捜索チーム係」（住所不詳）へ、12月28日まで郵送（当日消印有効）。

### サンタアラート

「サンタアラート」と呼ばれているシステムが、サンタ捜索活動に導入されている。これは、サンタの姿が発見されたとき、あるいはその痕跡が認められたときすぐに全捜査員の携帯端末に警報（アラート）が鳴る仕組み。24時間稼働しており、どこでどのようにサンタが現れたのか、速報が画面に表示される。さらに、その地点付近にいる捜査員には、より具体的な行動までもが指示されるといふ。一昨年の捜索から試験的に導入された。昨年からは本格的に導入。聖夜の捜索にも一定の効果をもたらしたという。

### 捜査を手助け

もし街なかで一人けり音が鳴って慌てている人がいたら、それはサンタ捜索チームのメンバーかもしれない。

「密裏に共同開発を行い、今回の発表となった。ひらめく力大切に」

最先端テクノロジーを活用したSSBについて、28日の会見で技術部の担当者が開発の経緯を説明。「これまでの捜索現場において、ベテラン捜査員たちのいわゆる第6感が働く場面を何度となく目にしてきました。知識と経験があるからこそ『なぜかわからないけど、あつちのほうにサンタの痕跡がありそう』というひらめきがある。私たちは考えています。そんな脳の力を最大限引き出すことで、捜査の役に立てられないか、というのが開発のきっかけです。」

もはやSFの世界が現実になろうとしている。サンタもここまでのテクノロジーが投入されるとは思ってもいないのではないだろうか。捜索チームでは現在、最終テストを実施中。雪が本格的に降る前には導入したい考えだ。



今年も捜索チームで導入される「サンタアラート」（イメージ）

### 企画制作／北海道新聞社営業局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承をお願いします。次回は12月上旬朝刊予定です。